

舞鶴市 MAIZURU-CITY 洪水ハザードマップ

野原川・瀬崎川・大丹生川

問合せ先 舞鶴市役所 危機管理・防災課 ©0773-66-1089 令和5年4月発行

このハザードマップの使い方

STEP1 知る 災害について知る (P2~3)

STEP2 考える 自宅や職場の状況をマップで確認し、災害時の行動を考える (P4~6)

STEP3 行動する 「マイ・タイムライン」を活用し、行動する (P7~8)

このハザードマップに掲載されている洪水浸水想定区域について

地図面(裏面)に掲載されている洪水浸水想定区域は、過去の大雨から想定される最大規模の降雨(おおむね1,000年に一度の大雨)があった場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより予測した結果を示しています。なお、この結果は、あくまでもシミュレーションの結果であり、想定を超える降雨や高潮・内水による氾濫を考慮していないため、浸水が予想されていない範囲でも浸水が発生する場合や浸水深が実際と異なる場合があります。各河川で想定された降雨は右記の通りです。

河川	想定降雨量
野原川	24時間総雨量 624mm
瀬崎川	
大丹生川	



STEP2 考える 災害時の行動を考えよう

日ごろから | 非常持ち出し品や備蓄品の準備をしておきましょう

非常持ち出し品(例)

非常食・飲料水 缶詰などの火を使わずに食べられるものやレトルト食品など簡単な調理で食べられるもの、飲料水(1日1人30L、車3人用程度)	懐中電灯・携帯電話・充電器 モバイルバッテリー、予備電池も良い	貴重品 現金、現金簿、印鑑、免許証、保証書など
救急医薬品 病院で処方された薬(お薬手帳)、絆創膏、傷薬、包帯、常備薬など	衣類・下着類 前掛け、下着、タオル類、防寒着、毛布など	その他 ティッシュ、筆、ロープ、ライター、ラップ、アルミホイル、生活用品など
これらのもも必要です	ローリングストック法 日常生活で食べ慣れている食品、使い慣れている日用品を常に備蓄する方法です。普段から多めに買って備えておくことで、災害時でも日常生活に近い生活を送ることができます。	

○赤ちゃんがいる場合
粉ミルクや哺乳瓶、離乳食、紙おむつ、母子手帳など

○高齢の方がいる場合
服用している薬、メガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど

警戒レベル1 | 台風や大雨が予想される時...

わが家の安全対策

被害を軽減するために、日ごろから家屋などの周りを点検し、万全の対策を立てておきましょう。

雨どいに落ち葉や砂が詰まり、排水が滞りやすくなっている場合は、早急に点検・清掃をしましょう。

録音機などは飛ばされやすいので室内へ移しましょう。

窓枠のたつきがないか、雨戸はきちんと締まっているか確認しましょう。

土のうを玄関に置いて、水が入ってくるのを止めます。

土のう(土を入れた袋)で浸水を止める方法

雨どいのたつきがないか、雨戸はきちんと締まっているか確認しましょう。

窓枠のたつきがないか、雨戸はきちんと締まっているか確認しましょう。

土のうを玄関に置いて、水が入ってくるのを止めます。

土のうステーションの利用

舞鶴市では、家屋への浸水被害を防ぐために出水期に「土のうステーション」を開設します。

日ごろからの雨溜りの清掃に、ご協力をお願いします。

物干し竿などは飛ばされないように室内へ移しましょう。

プロパンガスのボンベを固定しましょう。

自転車や看板などはとりこみましょう。

STEP1 知る 災害について知りましょう

一 雨の降り方と想定される状況

1時間の雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm~
災害の危険性	やや強い雨 この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。	強い雨 側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれ、小規模なけずれのおそれ。	激しい雨 山崩れ、けずれが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	非常に激しい雨 土石流が起こりやすくなる。多くの災害が発生する。	猛烈な雨 大規模な災害が発生するおそれがある。厳重な警戒が必要。

一 水害の原因となる気象現象

台風 激しい雨だけでなく、強い風によって物が飛んできたり倒れたりする危険があるため、雨や風が強くなる前に、家屋の補強などの対策が必要です。

局地的大雨 集中的に雨が降る局地的大雨や、激しい雨が数時間にわたって降り続く集中豪雨では、河川や水路が急激に増水の危険があります。

線状降水帯 積乱雲が連続して発生するため、激しい雨が長い時間降り続きます。近年、数多くの大きな被害が引き起こされています。

線状降水帯のメカニズム

一 内水氾濫と外水氾濫

内水氾濫 大雨による雨水や周りから流れ込んできた水が、バックウォーター現象などによって排水が追い付かなくなることで起こる氾濫です。

外水氾濫 大雨によって河川の水かさが増え堤防を超える、あるいは堤防が決壊して水があふれて起こる氾濫です。水が短時間で市街地へ流れ込むため、被害が大きくなる場合があります。

一 洪水で想定される被害

家屋の浸水(床下・床下浸水) 室内に水が入ってくると、倒れた家具によって移動ができなくなったり、水圧によってドアが開かず出入りできなくなる危険があります。

家屋の倒壊 河川沿いでは、氾濫流の勢いや河川付近の地面が削られることで、家屋が倒壊することがあります。

道路・地下道の冠水 冠水している場所へ入るのは危険です。徒歩では流される可能性、車では車内に閉じ込められる可能性があります。特に、アンダーパスや地下道などの低い場所は水深が深くなるため入らないでください。

バックウォーター現象 本川(大きい川)と支川(小さい川)が合流するところは、本川の水位が高くなると、支川上流からの水が本川へ流れにくくなり、支川が氾濫する危険があります。

STEP3 行動する 「マイ・タイムライン」を活用し、行動しましょう

日ごろから~災害時の行動

警戒レベル1・2 | 情報を入手しましょう

災害情報の入手方法

テレビ・ラジオ ニュースなどから気象情報、河川水位情報、避難情報などを入手できます。	NHK、KBS京都 テレビのデータ放送	リモコンのボタン
インターネット(パソコン、スマートフォン) 気象情報、河川水位情報、避難情報などが自動的に送られます。	河川防災情報 舞鶴市総合モニタリング情報配信システム	土砂災害危険度情報 洪水警報の危険度分布
電話 天気予報 177 防災行政無線テレホンサービス 0773-62-7400	事前に登録 メール配信サービス	舞鶴市公式LINEアカウント

防災行政無線・広報車・自主防災組織・消防団など 避難情報などを呼びかけます。

警戒レベル3 | 高齢者等は避難

- 避難に時間を要する人は避難しましょう
- その他の人は避難の準備をしましょう

警戒レベル4 | 全員避難 速やかに安全な場所に避難しましょう

もしものときの連絡手段

災害用伝言ダイヤル(171)

NTT災害用伝言ダイヤル利用方法《電話で録音・確認》

「災害用伝言ダイヤル(171)」は、地震などの災害発生時に、被災地への通信が増加し、被災地への通信がつかない状況になった場合、提供が開始される伝言板です。

「171」にダイヤルし171をダイヤルすると音声による利用ガイダンスが流れます。

録音は「1」をダイヤルし、再生は「2」をダイヤルし、録音のポイントを再生します。

録音のポイント
・氏名
・健康状態
・家族の安否
・避難所

伝言の録音ができます 伝言の再生ができます

STEP1 知る 災害について知りましょう

一 避難情報ととるべき行動

避難情報や防災気象情報などは5段階の「警戒レベル」を用いて伝えられます。避難情報が発令されたら速やかに避難行動をとれるよう、事前に避難情報の種類ととるべき行動を確認しておきましょう。また、避難情報が発令されていないときでも、キキクル(危険度分布)などの情報も確認するようにしましょう。

警戒レベル	とるべき行動など	避難情報など	警戒レベル相当情報(避難所指定となる情報)キキクル(危険度分布)
警戒レベル5	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとります。	緊急安全確保 災害が実際に発生していることを確認した場合に、可能な範囲で市が発令	災害切迫
警戒レベル4	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難指示(市が発令)	危険
警戒レベル3	避難に時間を要する方(高齢の方、障害のある方、乳幼児など)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難(市が発令)	警戒
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁が発令)	注意
警戒レベル1	災害への心構えを高めます。	早期注意情報(気象庁が発令)	-

警戒レベル4までに必ず避難!

警戒レベル2 避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。

警戒レベル1 災害への心構えを高めます。

各種の情報は、警戒レベル1~5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

目録 洪水キキクル(危険度分布)とは ~中小河川から命を守るために~

洪水キキクルは気象庁のホームページで公開されており、中小河川の洪水発生時の危険の高まりを警戒レベルにあわせて段階の河川の色分けで示しています。中小河川では、雨が降ると水位が上がりがやすく、避難が間に合わない場合があります。事前に、注意報や警報が発令されたときや急に激しい雨が降ったときは、洪水キキクルで最新の情報を入手し、早めの避難行動をとることが大切です。

黒 災害切迫 警戒レベル5相当
洪水災害がすでに発生している可能性が高い

紫 危険 警戒レベル4相当
さらに増水し、今後氾濫し重大な洪水災害が発生する可能性が高い

赤 警戒 警戒レベル3相当
洪水災害への警戒が必要

黄 注意 警戒レベル2相当
洪水災害への注意が必要

青 今後の情報等に留意

洪水キキクルはこちら
洪水警報の危険度分布(気象庁HP)

STEP2 考える 災害時の行動を考えよう

避難行動判定フロー

地図面(裏面)で自宅周辺にどのような災害が起こる可能性があるか確認し、避難行動を考えましょう。

✓以下のどちらかに当てはまる

□地図面(裏面)で自宅や職場付近に色はついていませんか?

□過去に浸水したことがある場所ですか?

□凡例

5.0m以上	3階部分より上まで浸水
3.0m以上5.0m未満	2階部分まで浸水
1.0m以上3.0m未満	床下1階部分まで浸水
0.5m以上1.0m未満	床上浸水
0.5m未満	床下浸水

✓以下のどちらかに当てはまる

□早期立ち退き避難が必要な区域内ですか?

□土砂災害警戒区域内ですか?

□想定浸水深は最上階の床高よりも高いですか?

□土砂災害のおそれがある区域

□土砂災害ハザードマップはこちら

□土砂災害のおそれがある区域

立ち退き避難(水平避難)

その場にとどまると危険です。安全な場所に避難しましょう。避難先は公的な避難所だけでなく、安全な観音寺・知人宅、ホテルや旅館への分散避難も考えましょう。

□避難所

□観音寺・知人宅

屋内での安全確保(垂直避難)

不要不急な外出は控え、自宅の上層などに避難して安全を確保しましょう。

STEP3 行動する 「マイ・タイムライン」を活用し、行動しましょう

STEP2で災害時の行動を確認したら、マイ・タイムラインを作成しましょう。また、マイ・タイムラインに基づいた避難訓練を年に一度は実施し、いざというときに備えましょう。

避難情報など

日ごろから 防災情報などの情報収集に努める

警戒レベル1 今後気象状況悪化のおそれ 災害への心構えを高める

警戒レベル2 気象状況悪化 自らの避難行動を確認

警戒レベル3 災害のおそれあり 危険な場所から高齢者等は避難

警戒レベル4 災害のおそれ高い 危険な場所から全員避難

警戒レベル5 災害発生または切迫 命の危険 直ちに安全確保!

行動

▶外出前に天気予報を確認

▶最新の天気予報を入手

▶ハザードマップの確認

▶災害時の行動について家族と話し合う

▶非常持ち出し品・備蓄品を準備

▶避難訓練を実施

▶家屋の安全対策を確認

▶気象情報をこまめに確認

▶家族の今後の予定を調べておく

▶車の燃料を確認

▶マイ・タイムラインの確認

▶ハザードマップなどで避難方法・経路を確認

▶非常持ち出し品を再確認

▶避難に時間を要する方(高齢の方、障害のある方、乳幼児など)とその支援者は避難開始

▶その他の人は避難の準備開始

▶自宅内より安全な場所に避難

事前の確認事項

住んでいる地域の危険は?
□土砂災害警戒区域内(イエロー・レッド)
□洪水浸水想定区域内(浸水深__m__m)

自宅の近くに川はある?
□川 □水路

家族で決めた避難所は?
□自宅の上階(大雨時)
□自宅外 → 移動時間→

非常食・飲料水の備蓄は?
□3日分 □7日分

非常持ち出し品の準備はできています?
□非常食・飲料水 □懐中電灯 □携帯電話 □携帯ラジオ □充電器 □現金などの貴重品 □免許証、保険証 □病院で処方された薬(お薬手帳) □常備薬 □衣類・下着類 □防寒着・毛布など □マスク □消毒薬 □体温計 □粉ミルク・哺乳瓶 □離乳食 □紙おむつ □母子手帳 □メガネ □入れ歯 □補聴器

自主的な避難行動のきっかけとなるスイッチ(タイミング)は? 事前にスイッチ(タイミング)を決めておきましょう。

スイッチ1 (余裕をもって行う避難行動)
□川 観測所 水位 __m
□川 の洪水キキクルが __色
□土砂災害危険度情報 __色

スイッチ2 (緊急避難行動)
□川 観測所 水位 __m
□川 の洪水キキクルが __色
□土砂災害危険度情報 __色

例) 避難の準備を始める。祖父・祖母をつけて〇〇に避難する。

例) 速やかに〇〇に避難する。

例) 避難を完了させる。

「いつ」「だれが」「何を」するか

マイ・タイムラインを作ってみよう

あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画(マイ・タイムライン)を作ってみよう

雨風が強くなる前の時間

避難行動を開始する時間

身の安全を確保すべき時間

わが家の防災メモ

近隣の避難先	名前	いざというときの連絡先
避難所		電話番号
次善(セカンドベスト)の避難所		

例) 〇〇小学校

例) 親せき・知人宅、〇〇公民館

情報の入手先

【スイッチや避難情報】	【情報の入手先】
河川防災情報	舞鶴市総合モニタリング情報配信システム、川の防災情報(国交省HP)
土砂災害危険度情報	京都府土砂災害警戒情報(京都府HP)
洪水キキクル	洪水警報の危険度分布(気象庁HP)
避難情報	緊急通報メール、テレビのテロップ、テレビのデータ放送、まいつづメール配信サービス、舞鶴市HP、舞鶴市防災行政無線

情報の入手方法はPGを参照

STEP3 行動する 「マイ・タイムライン」を活用し、行動しましょう

警戒レベル4までに必ず避難!

山・がけから離れた2階以上へ避難

方角が逃げ遅れた場合は命を守る行動をとります。近隣の頑丈な建物や自宅内で安全を確保しましょう。

洪水ハザードマップ

想定最大規模

想定最大規模とは
おおむね**1,000年に一度**の大雨

想定最大規模とは、舞鶴市域と降雨の特性が似ている近畿地域において過去に降った最大降雨量から設定された「想定し得る最大の降雨規模」です。

各河川で想定された降雨量

河川	想定降雨量
野原川	24時間総雨量624mm
瀬崎川	
大丹生川	
大丹生川	

このハザードマップは、令和2年・令和4年に中丹東土木事務所より指定・告示された洪水浸水想定区域を用いて作成しています。

過去の災害時最大48時間雨量
(舞鶴市特別地域気象観測所)

年次	月日	名称	雨量
昭和28年	9月24~26日	台風13号	471.6mm
平成16年	10月19~21日	台風23号	324.5mm
平成25年	9月15~17日	台風18号	305.0mm
平成29年	10月21~23日	台風21号	337.5mm
平成30年	7月5~7日	7月豪雨	406.0mm

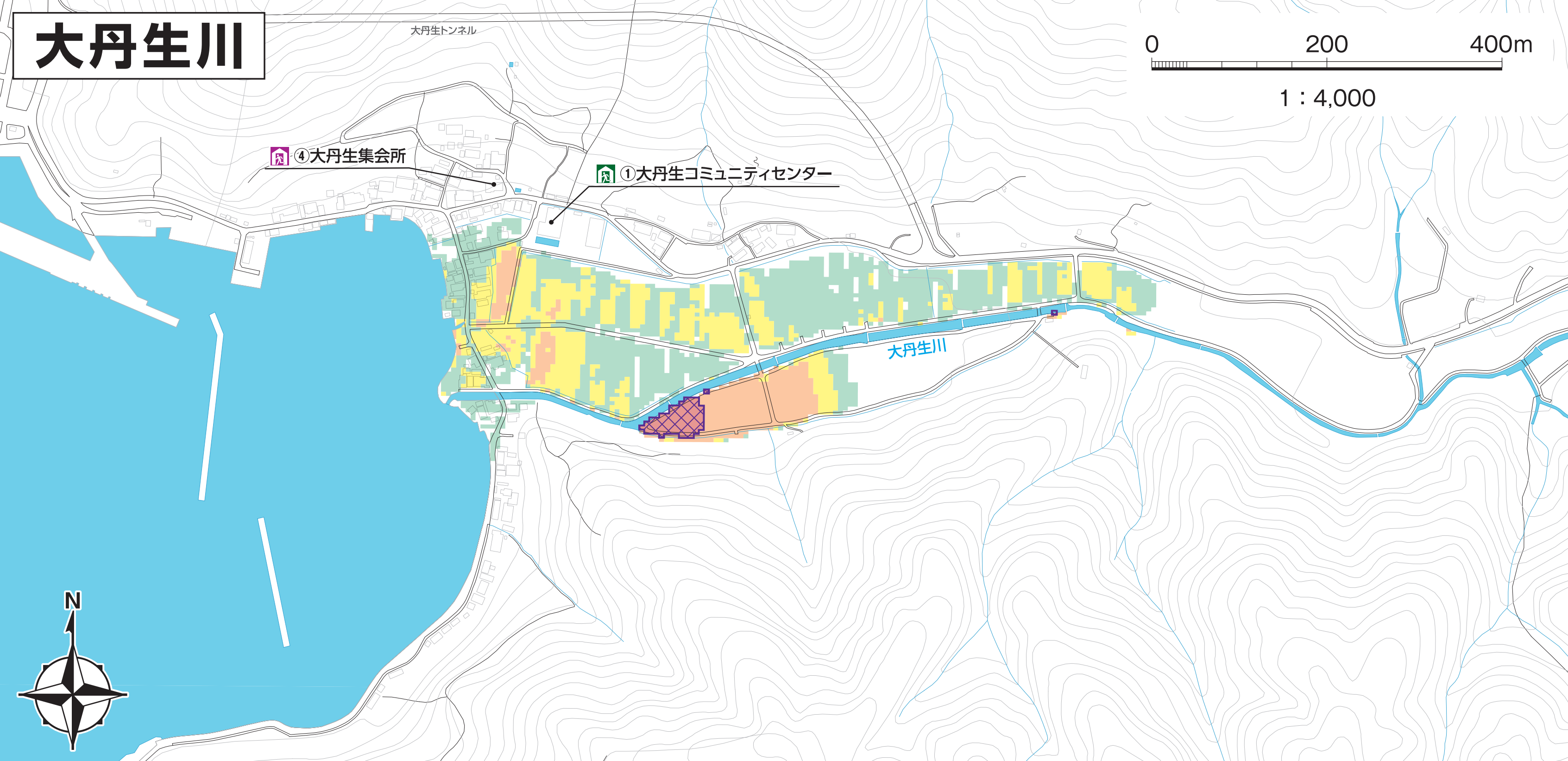
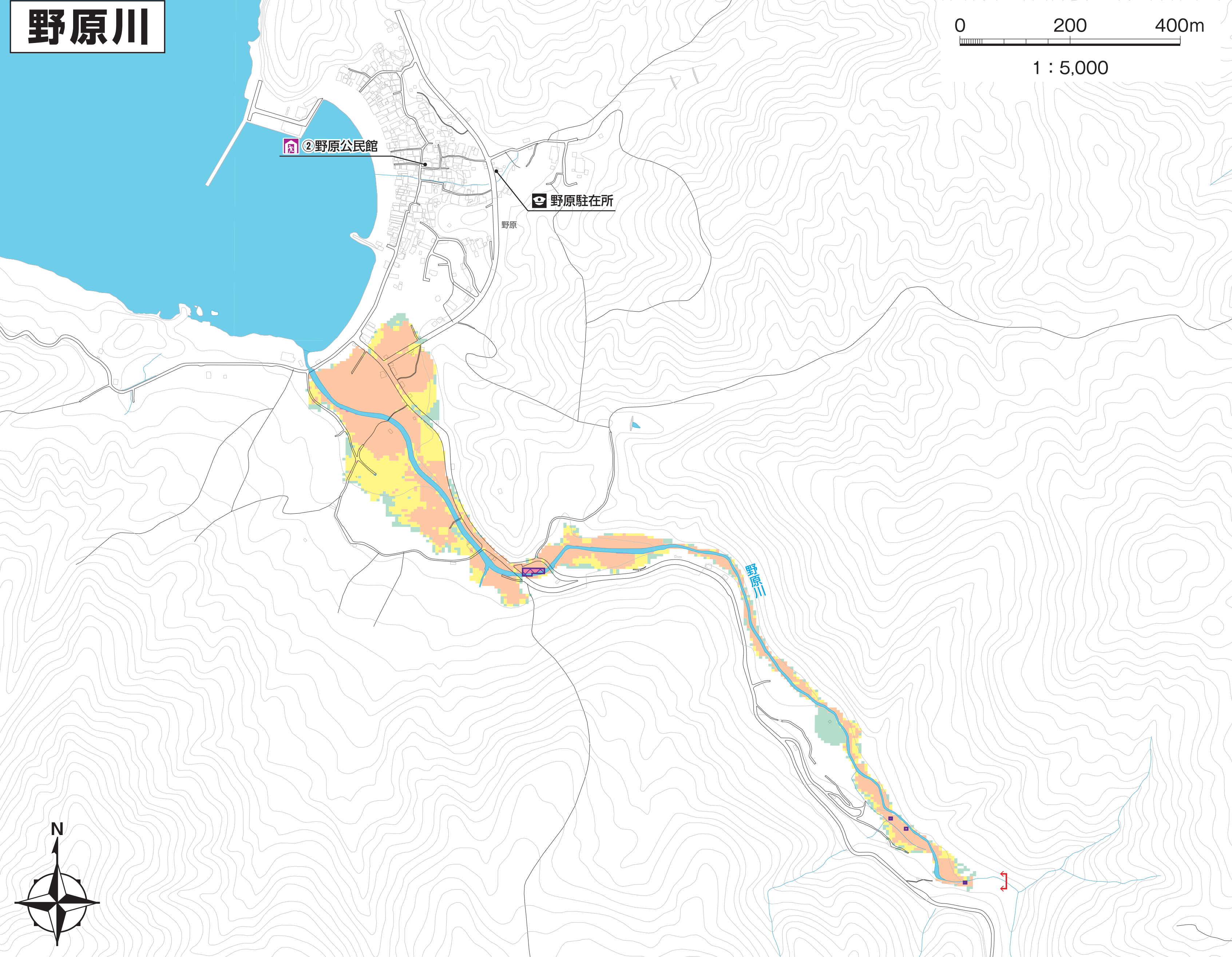
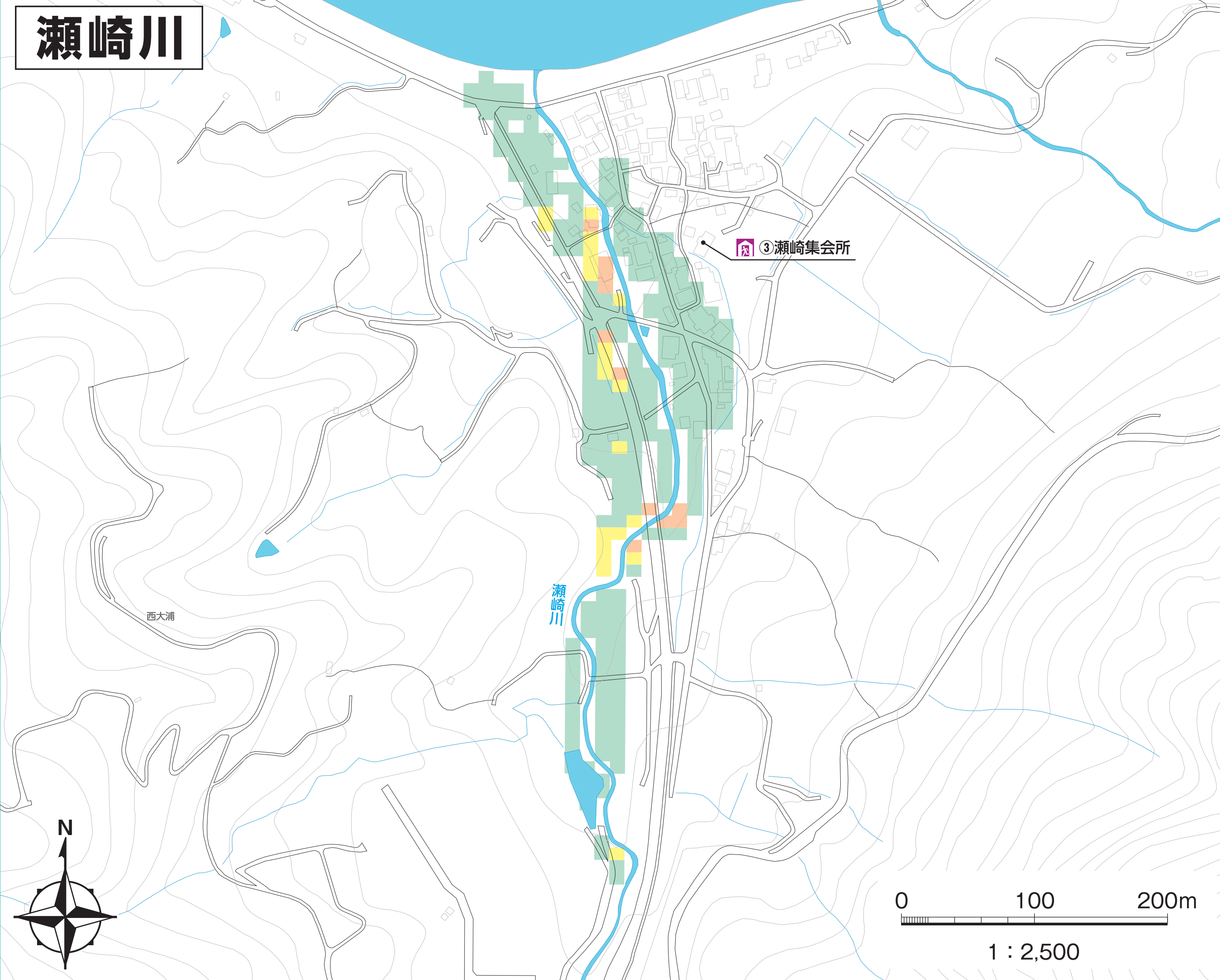
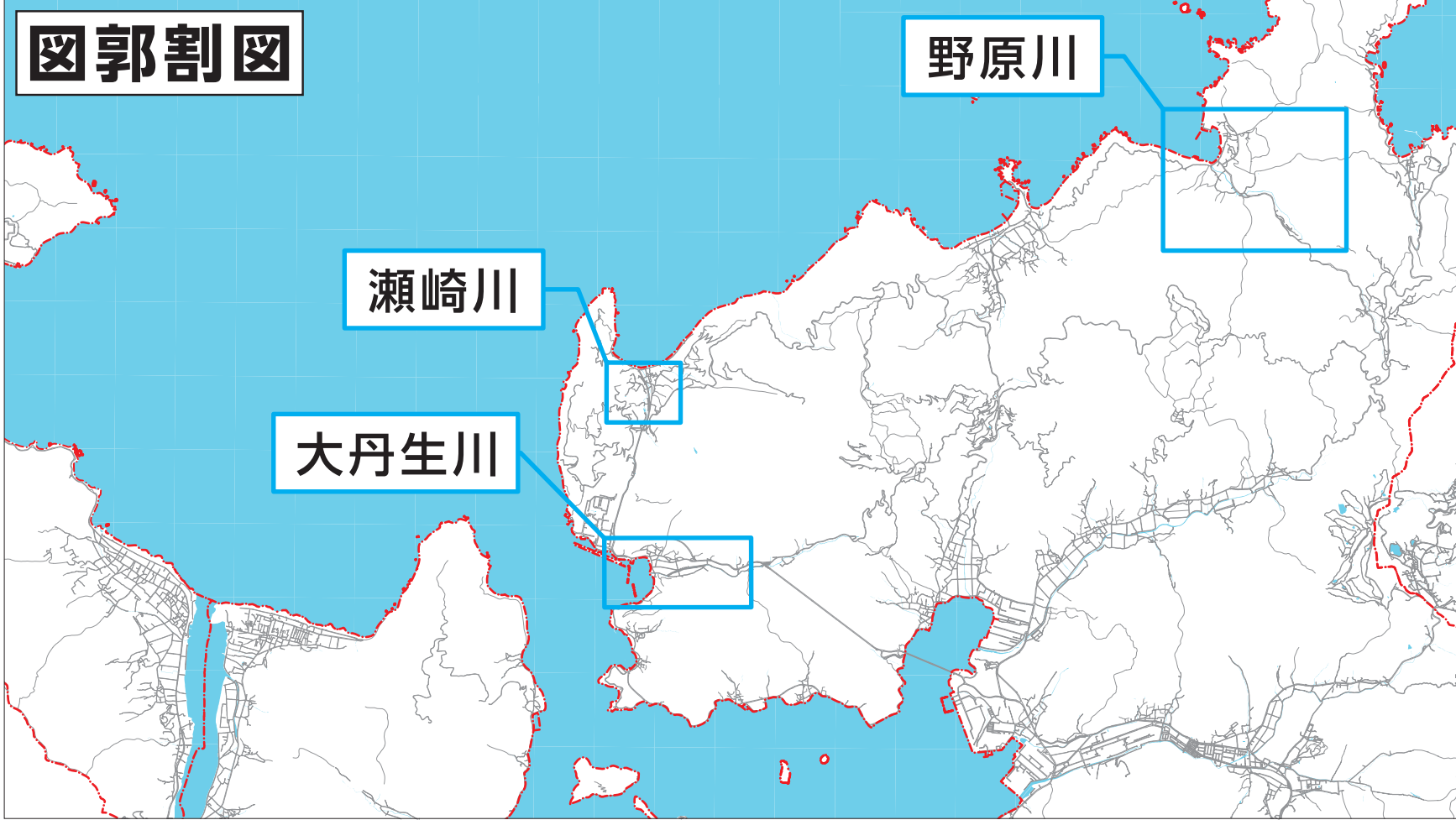


パソコン・スマホからもハザードマップの情報をご覧いただけます。

避難所一覧

種類	施設名称	所在地	電話番号	指定緊急避難場所
準拠点	① 大丹生コミュニティセンター	大丹生	68-1075	○
地域	② 野原公民館	野原	67-0705	○
	③ 瀬崎集会所	瀬崎	68-0500	○
	④ 大丹生集会所	大丹生	68-0267	○

○:洪水時避難可能



凡例

	避難所(自主・拠点・準拠点) 災害の種類や規模によって主に市が開設します。
	地域避難所 主に地域などで自主的に開設します。
	駐在所
	市の境界線

早期立ち退きが必要な区域

※浸水深3m以上の区域

注意:シミュレーションでは、支川の氾濫や内水氾濫、高潮などは考慮していません。そのため、状況によってはマップに示されている範囲以外でも浸水が発生する場合があります。

浸水想定シミュレーションを実施した範囲(下流は海まで)

